

平成30年度
学校評価
各校務分掌評価

各部評価 4・・・計画どおりできている(80%)
3・・・概ねできている(60%)
2・・・どちらかというとできていない(40%)
1・・・できていない(20%)

基 本 方 針		努 力 目 標		具 体 的 な 取 組 み		反 省	学校評議員からの意見・提言 及び学校評価				
内 容	評価	内 容	評価	内 容	評価						
教 務 部	本校教育方針に基づく教育課程を編成し、学力向上を図るために、各部・各教科・各学年と連携を密にして、問題解決能力を育成する教育を行うとともに個に応じたわかる授業の推進に努める。	3	(1)学力向上と学習指導の創意・工夫	3	①「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業の推進	2.9	7月に「カリキュラム・マネジメントとアクティブラーニングを踏まえた授業実践」をテーマに実施。9月の研究授業（11名）では延べ77名が参観。研修内容が授業実践と直結するものを望む声が多く、来年度に活かしていきたい。	・各部共通の課題として、8時25分の時間を守ることが課題となっているようである。基本的なルールである時間を守るための意識付け、生徒自身の意識改革を期待したい。 ・改定に向け積極的に「カリキュラムマネジメントとアクティブラーニング（主体的、対話的で深い学び）」の取組が進められていることはすばらしい。入学時、卒業時に生徒の資質や学力の状況を把握し、3年間の伸びがあると良い。 ・授業時数の確保（評価2. 5）が気になる。 ・途中で行事が入ったり、曜日・時間割変更があることが多い感じかしたとあるが、結局どうなったのか。（学校：行事の精選及び見直しについて活性化委員会を組織し改善に取り組んでいる。） ・授業を進めるにあたって、学力面で中学校卒業時にもう少し身につけてほしいものは何か、中学校との連携は何かあるか知りたい。（学校：中高連携は様々なあるが、学力向上に関しては、数学など中高合同の指導力研修会を開くなどの取組がある）			
				3	②専門力の向上と基礎学力の定着するような指導を図る。（部・学年・教科・学科と連携）	2.2					
				3	③学習意欲の低い生徒、成績の思わしくない生徒へ指導を工夫する。（教科、学年と連携）	2.6					
				3	④学年と連携し、家庭学習の促進・充実を図る。（宅習調査の活用）	2.8					
				3	⑤始業時 8：25着席と授業開始前の着席の推進を図る。（チャイム to チャイム）	2.5					
	(2)授業時数の確保	3	授業時数の確保	3	①計画的に行事を運営する。②学校行事を工夫する。	2.7	「計画的に」が機能していない。途中で行事が入ったり、曜日・時間割変更があることが多い感じかした。				
								(4)情報の活用	3	教育活動の情報を活用するため、情報化推進係と連携する。（職員連絡網、成績関係）	2.8
生 徒 指 導 部	生徒指導の重要性について全職員の共通理解のもとに一体となった指導を行う。また、生徒一人ひとりの個性伸長を図りながら、人としての「在り方」「生き方」を考えさせ、思いやりを持った心身ともに健全で人間性豊かな社会人を育てる。さらに、社会生活に必要な規則を遵守する習慣と自主・自律・責任感を培い、良識と勇気ある態度を育成する。	2.9	(1)「分かりやすい」生徒指導の実践	2.9	①全職員が共通理解を持って生徒指導を行えるような研修、資料作成等を行なう。	3	容儀規定をはじめ、生徒指導内規について職員間で解釈のずれが生じている。職員研修等で全教職員が同じ目線で生徒指導に当たれるよう工夫したい。 ・1年生全員部活動は特別な事情がない限り続けていただきたい。人間は多くの人間の中で生きているのであって、人のコミュニケーション能力は人との間で形成されるものと考えられるからです。 ・容儀や規範意識、遅刻など教職員の共通理解が大切。情報を共有し、取り組んでもらいたい。 ・情報モラル教育について具体的な指導内容及び生徒の実態を伺いたい。＜SNS発信と個人情報についても含む＞（学校：情報モラルは日常的に指導を行っている。また、SNSトラブルの未然防止のため、生徒向け研修会や講演会を年間、複数回実施している。） ・携帯電話、アルバイト、部活動などの内規の見直しについて具体的にどのような変更を考えているのか伺いたい。（学校：生徒や保護者の多様なニーズや携帯電話を取り巻く情勢も急激に変化しているため、改定に向け検討している。）				
				2.8	②保護者、生徒が学校の指導方針を良く理解し、「宮農ブランド」確立に向けて共に歩めるように、積極的に情報発信を行い、綿密なコミュニケーションを図る。	2.8					
			(2)基本的生活習慣の確立及び規範意識の向上	2.9	3.1	①規範意識の高い生徒、礼儀正しい生徒（服装・言葉遣い）の育成を図るために、立ち番指導、容儀指導をはじめ、日常的生活指導を充実させる。		3.1	朝の立ち番など常時指導を行い一定の成果は挙げられた。しかし、8：25過ぎでの駆け込み登校が多いなど、課題は多い。学校挙げての遅刻指導等、体制作りが必要と感じる。		
					2.7	②各校務分掌と連携して、基本的生活習慣が確立されていない生徒が生活改善できるようにサポート体制を整える。		2.7			
			(3)部活動の活性化	2.5	2.7	①1年生全員部活動制が生徒指導上有意義と捉え、今年度も制度を維持する。また、定期的に活動調査を行い、定着率の向上を図る。		2.7	部活動の在り方、活性化、強化など現在検討中。今年度中に計画をまとめ、部顧問会などで意見を伺いたい。		
					2.5	②本校における部活動活性化及び強化の在り方について、環境面、予算面から今年1年で方向性を打ち出すよう努力する。そのために、定期的に部顧問会を開催する。		2.5			
					2.4	③誰からも応援される部活動作りを目的に、定期的に部活動生集会を開催して指導を行う。		2.4			
			(4)生徒会活動・各種委員会活動の充実	3.0	3	①自ら考え、自ら実行する生徒会活動を目指す。		3	2学期の生徒会行事は例年以上の好評価をいただいた。次年度は祝日が増える関係で行事日程の見直し、精選が必要となる。生徒会活動の充実と行事の精選が両立できるように今から検討が必要。		
					3	②生徒会活動・各種委員会活動を通して、行事等へ自主的・積極的に参加する生徒の育成を図る。		3			
			(5)交通安全・情報教育モラルの指導徹底	2.8	3	①登校指導や交通法規、交通マナーの指導を徹底する。		3	生徒の登下校時の事故が多い。生徒自身が危機管理ができていない。交通面に限らず、様々な安全情報を生徒・保護者へ発信する必要がある。		
					2.6	②情報モラル教育の指導を行う。		2.6			
			(6)地域、家庭との連携を図る	2.9	2.8	①出身中学校及び近隣校、各公的機関などと情報交換を密にし、積極的に連携を図る。		2.8	関係機関、本校保護者とは良好な関係が築けていると感じるが、本校からの情報発信の機会が不足している現状が有り、生指部通信などの情報発信の機会を増やしたい。		
					3	②家庭と学校との関係強化のために、どのような相談や問題にも真摯に向き合い、信頼を得られるように努力する。		3		本校のいじめ根絶への取り組みについて、分かりやすいリーフレット等を作成して、職員、保護者へ周知徹底をはかりたい。その他 携帯電話、アルバイト、部活動、制服などの内規を見直す時期に来ている。今年度中に道筋を作りたい。	
					3	①「いじめはどこでも起こりうるもの」という前提の下に、本校いじめ防止基本方針に決められたとおりの活動を行う。		3			
進 路 指 導 部	3年間を見通したキャリア教育を体系化することにより、進路意識の明確化を促し、生徒の進路目標の達成を図る。	3	生徒の進路意識の喚起	3	3.4	①学年会との連携を図り、効果的な指導を行う。	3.4	・積極的な取組により進路が早期に決まることは高く評価できると思う。新しく入学を希望する生徒・保護者にとっても関心の高いところがあるので、引き続き積極的な取組が期待される。 ・生徒の進路指導では就職・進学も含めて先生方は多大な努力をされていることと思います。宮崎農業高校の生徒を見たとき、礼儀正しく学習意欲に富んだ生徒が多いと感じています。これから生徒の適性を見ながら指導していただき、大学でも、その適性が発揮できるよう取り組んでいきたいと考えています。			
					3.1	②LHR・総学など3年間を見通した指導を行う。	3.1				
					3.3	③進路ガイダンスを実施し、内容を充実させる。	3.3				
					3.3	④オープンキャンパスや各種講座の有効活用を促進する。	3.3				
					3.4	⑤進路意識調査を毎学期実施し、生徒理解につとめる。	3.4				
					2.7	⑥進路便りを定期的に発行し、進路意識の喚起を図る。	2.7				
					2.7	⑦進路委員会の活性化を図り、生徒自らが情報収集に努める姿勢を醸成する。	2.7				
			進路達成のための取り組み	3	3.1	⑧進路実現のための学習指導を実施する。	3.1		○進路委員会の活動の一つとして、進路便り「サクラサク」を第5号まで出している。 ○3年夏休みの全員課外については、生徒の動きが把握できるように改善し、昨年から実施した国公立大の受験生徒への対応についても、直前まで実施できた。 ★課題として、国公立大希望者の早期掘り起こし、実力テストの在り方、模試の活用の仕方などが挙げられるが、検討していきたい。		
					3	⑨生徒理解のための面談を実施し、記録する。	3				
					2.7	⑩模擬試験を実施し、自己の学力の点検と課題を理解させる。	2.7				
					3.4	⑪面接指導を実施する。	3.4				
					3.4	⑫就職指導の徹底を図る。	3.4				
					3.5	⑬進学指導の徹底を図る。	3.5				

	基 本 方 針		努 力 目 標		具 体 的 な 取 組 み		反 省	学校評議員からの意見・提言 及び学校評価
	内 容	評価	内 容	評価	内 容	評価		
農務部	時代の進展に対応し、地域の特性を生かした農業教育に取り組み、地域社会の発展に貢献できる人材の育成を目標とする	3	学科の教育内容の構造化・体系化を図ること で学科の教育目標を明確にし、座学と実習を連動させた向上心を育む特色ある農業教育の体制を整える。	2	① 各学科・各部門における特色ある教育の明確化	2.5	① 学科間の特色の明確化B、Dのすみ分けできているのか。 学科間の調整等が必要。 ② 職員の研修の時間がとれなかった。ドローンなどスマート農業に対応できるような研修を実施していく必要を感じている。 ③ 納品に関する時間を要するようになり、計画的な管理が難しくなりつつある。 ④ 特別会計を積極的にに行い、さらに施設設備の充実を進めて欲しい。 GAPに対応した農場整備が必要。 即売会での生産物が少ない。 ② インターシップや各種イベントを通して農家や関係機関との連携を図られた参加するイベント、行事等の精選が必要な時期とも考える ③ 各学科の専門性の資格取得に向けた課外等行いサポートができた	・教育機関として、将来の後継者または指導者育成にあたり、GAPやICTを活用した取組は、さらに重要になってくると考える。今後、さらに積極的に取り組んで頂きたい。 ・スマート農業は、農水省も積極的に推進していてイベントが開催されているので、ぜひ参加してほしい。 ・教員の研修については、新学習指導要領に向け、これから工夫した取組が必要になる。力のある、学び方の身についた生徒を育てる意味でも型にとらわれない研修も取り入れてほしい。（学校：研修は専門分野ごとに県内農業高校教職員対象に実施している。また、今年度より、実習教師向けのコンプライアンス及び技術研修等も新たに実施し、取り組んでいる。） ・環境教育、安全教育は学校の特色から一番必要と思われるところではないか。今までの課題を見直してほしい。
					② 教育内容の充実のための主体的な職員研修の実施	2.3		
					③ 特別会計の活用 の推進	2.6		
					④ 社会の進展に応じた教育に対応できる施設・設備の充実	2.3		
			専門学習を基盤にした自ら考え主体的に行動する能力や問題を解決する能力を育成することで、地域社会を担える人材の育成を図る。	3	① 農業クラブ活動の充実	2.8		
					② 関係機関や地域との連携による教育の推進	3		
					③ 環境教育・安全教育の充実	2.4		
					④ 専門学習の深化を図る資格取得の推進	2.8		
保健	生徒の健康の保持増進をはかる	3	保健教育・保健管理の推進と生徒保健委員会の活性化	3	① 日常的な生徒の心身の健康状態の把握と適切な指導	3.7		
					② 健康診断の事後処理の徹底と生徒の健康の保持増進	3		
					③ 生徒の安全意識の向上	3		
					④ 健康教育の充実	3.4		
					⑤ 保健委員会の活性化	3.4		
図書部	生徒の学習活動を手助けし豊かな人間性の涵養に資するべく魅力ある図書館づくりに努める。	3	1 読書の推進	3	① 読書案内、レファレンスサービスに努める。	3.7	・生徒の読書意欲を喚起するため、色々な視点から「おすすめコーナー」を設け、貸出につながる。 ・クラス用のCDプレーヤーが老朽化してきている。来年度新規購入の必要あり。 ・農業関係の専門図書の充実が今後の課題である。 ・1年生の貸出件数が増えてきた。 ・生徒の希望図書を部内で検討し、なるべく購入するようにした。月刊誌の購入雑誌を一部変更した。（ダヴィチとタウンみやざき） ・くろがね祭で、3年生の図書委員がしおりを作成し、無料配布したところ、好評であった。来年度も実施したい。	・書籍だけに留まらず社会性を育むため、新聞への関心を深められるとよいのではないのでしょうか。例えば「人権教育」の項でLGBTに関心を示す生徒が多いように「今の社会」でみえるのは、新聞だったりするのではないか。（学校：本校でも社会科が中心となり、NIE教育を行っている。） ・1年生の貸し出し数増は良いことだが、読書の推進の中で閲覧室利用の低さが気になる。（学校：図書エリアコーディネーターの助言をもらい、読書活動の推進に取り組んでいる。）
					② 朝の10分間読書の充実を図る。	3		
					③ 各種広報を通して生徒の読書意欲の喚起に努める。	3		
					④ 図書閲覧室の、H R活動や授業における利用を促進する。	2		
			2 環境作り	3	⑤ 新入生に図書オリエンテーションを実施する。	4		
					① 図書館内外の静粛で清潔な環境作りに努める。	3.7		
					② 生徒の就職・進学 の準備に役立つ図書資料を整える。	3		
					③ 蔵書に関する各種のデータを適正に管理する。	3		
					④ 生徒・職員の利用実態に即した図書	3		
			3 視聴覚機器の活用	3	① 視聴覚教材、機材の整備・管理を徹底する。	3		
					② 視聴覚教材、機材の活用を促進する。	2		
			4 委員会活動の充実	3	① 図書委員会の活動を促進しH Rとの連携を図る。	3		
					② くろがね祭に積極的に参加する。	3		
渉外部	本校の教育目標を実現するため、教職員及び保護者の共通理解・連携を深める。さらに、生徒の健全育成をはかり、進路目標実現するための活動や研修・広報活動に取り組むなど、PTA諸活動の充実・発展に努める。	3	各種専門委員会の活性化、保護者・同窓会との連携	3	① 各種専門委員会及び学年・学級などのPTA諸活動の活性化と充実を図る	3	・各委員会での研修会では、多くの保護者が参加され充実した研修会ができたが、日程等で調整が必要なところもあった。また、目指す生徒像に掲げている「学校に誇りを持てる生徒」の育成と意識付けが今後の検討課題。 ・インターンシップや生産物即売会などで、本校卒業生の協力をもらい連携を図っているが、さらなる連携を進めていきたい。 ・全国高P連・九州高P連・県高P連・県中地区・農水部会などの研修会や講習会などにも積極的に参加をしていただき、交流も盛んにできました。来年度は、農水部会の事務局校になるので、準備なども今後進めていきたい。	
					② 本校発展のための協力体制を確立するため、同窓会（くろがね会）会員相互の連携を図る。進路について指導・協力を求める。	2.5		
					③ 県高P連・中地区の各高校PTAとの情報交換及び交流を進め、諸活動の充実を図る。	3.5		
環境整備部	本校の教育目標に則って、全職員の共通理解のもとに生徒の美化活動・緑化活動をととして学校並びに地域の環境を美しく維持発展させることに努める。	3	(1) 清掃及美化活動の徹底	3	① 通常清掃で普通科棟の清掃指導を徹底する。	2.8	通常清掃時の生徒の取り組みが以前に比べて悪くなっているように感じ、美化委員などの呼びかけなどで対応したい。校内の草刈りや除草など環境整備の職員に限らず積極的に動いてもらえる職員が多く、係としては凄く助かっている。まだ経過途中ではあるが粗大ゴミによる景観悪の問題解決を目指したい。	
					② 通常清掃で特別教室棟の清掃指導を徹底する。	2.8		
					③ 通常清掃で外庭の清掃指導を徹底する。	2.7		
					④ 大清掃での清掃指導を徹底する。	3.3		
			(2) 美化活動・ゴミの減量化	3	⑤ 清掃用具の整備、愛護に努める。	3		
					① ゴミの分別指導を徹底する。	3.3		
					② 学校への持ち込みゴミの持ち帰り指導を行う。	2.6		
					③ 授業など生徒の教育活動が環境の美化からはじめさせるよう努める。	2.9		
			(3) 美化委員会の活性化	3	① 美化委員会の活動を活性化する。	2.9		
人権教育	学校における全領域、全教育活動を通じて人権同和教育を推進する。	3	学校全体に人権尊重の精神を広め、その態度や行動力を育成する。	3	① 各学年におけるL H R等を通じ、人権学習の充実を図る。	3	1・2学期のL H Rは、各学年の特性に応じて実施した。内容・時期的にまだ改善の余地があるため、次年度はもう少し係の方で詰めていきたいと考えている。 職員研修については、次年度に部活差別の現状や問題点などについて、研修会を開けないものかと考えている。2学期には、次世代ペアレント事業と組み合わせてL G B T関係の講演会（職員研修会）を開催した。生徒の姿勢は良好であったし、感想文を読んでも意識の高さに驚かされた。講演会前には、人権便りを通じてL G B Tの概要を説明したが、12月には講演会の生徒感想文をもとに、人権便りを発行しようと考えている。また、同月に3年生を対象に結婚差別に関するビデオを見せる予定である。今年度は、8月と12月の人権同和教育の県大会には、先生方や保護者の方々の御協力を得ながら参加することになっている。	・人権学習教育については、学校教育の基礎となるところである。意識して、意図的に取り組むことが大切であり、係にまかせるのではなく、管理職も積極的に動くことが必要だと思う。（学校：人権学習関連の研修会や講演会への積極的な参加呼びかけをしていきたい。）
					② 職員研修を企画・実施する。	2		
					③ 人権啓発資料（人権便り）を発行する。	2		
					④ 人権同和教育関係の研修会・大会への積極的参加を推進する。	3		

	基 本 方 針		努 力 目 標		具 体 的 な 取 組 み		反 省	学校評議員からの意見・提言 及び学校評価
	内 容	評価	内 容	評価	内 容	評価		
事務部	本校教育目標の実現に向けて、各部・各科との連携を図り円滑な学校運営を推進するとともに、教育環境の整備・充実を図る。	3	(1)法令を遵守し、相互牽制を図りながら迅速で適正な事務処理に努める。	3	①根拠法令を確認しながら起案を行うとともに、相互牽制を図りながら迅速かつ適正な事務処理に努める。	3.3	・予算の執行については、各科とも計画的な執行をしていただいているようである。今後も節約をお願いしたい。 ・旅行命令に変更があった場合は事務担当にも連絡をお願いしたい。 ・出勤簿の押印や休暇処理簿の記入がされていないと事務処理ができないのでご協力をお願いしたい。 ・経済的に厳しい家庭や校納金納付意識が低く長期滞納している保護者に対し、担任や部顧問の先生方の協力は非常にありがたかった。完納に向けて今後もよろしくお願いしたい。	・担任が未納者への連絡等を担うことは負担にならないのでしょうか。(学校:事務部からの連絡をした上で、全部に連絡をしてもらうのではなく、長期未納など様々なケースがあることから、段階を持って担任には協力してもらっている。)
			(2)計画的かつ効果的な予算執行に努める。	3	②各部・各科へ早期に予算配分を行うとともに、常に全予算の執行状況把握に努める。	2.6		
			(3)施設・設備の整備充実を図り、教育環境の向上に努める。	3	③日常点検や予算調査を通して状況を把握し、早期改善を図る。	2.8		
			(4)環境に優しい物品購入や省エネ対策を推進するとともに、光熱水費の対前年度比3%減を目指す。	3	④宮崎県グリーン購入方針に基づくエコ商品の選定・購入を行い、「県庁地球温暖化対策実行計画エコプラン」の取り組みを推進する。	3		
			(5)学校の窓口として、より良い接遇を心がけ、開かれた学校の推進に努める。	4	⑤来客や電話など誠実に対応することにより、学校の印象度を高める。	3.6		
			(6)学校諸経費の適正化と透明化を図るとともに、納期内納入の徹底に努める。	2	⑥学級担任等と連絡を密にしながら、未納者への文書督促や電話連絡を行う。	2.3		
教育相談係	教育相談体制の確立と運営の円滑化を図る	3	生徒の多様な相談を受け入れ、共感の立場から適切な助言・指導を行う。 生徒の不安や悩みを早期発見するために調査等を実施し、活用を図る。	3	①不本意入学・目的意識の欠如・経済的不安を持った生徒へ早期対応できる体制作りに努める。 ②一年生に対し、「生徒理解調査(Σ)」を実施し、結果の活用ができるように努める。 ③教育相談(学習・進路)期間を設け、担任の面談の機会を確保する。	3	○週1回の情報交換の積み重ねは有効。ただし、行事や出張の関係で、十分な情報が集まらないこともある。学年会(学年主任)との日常的な連携の方法をさらに検討。 ○第2回教育相談週間は台風のため1日短縮され、担任は大変だった。相談週間内のLHR、あるいはその前後のLHRを「面談」として備えておくことはできないか。LHR係(生指部)とともに検討。 ○様々な特性や家庭事情を持つ生徒が今後も入学してくる。各学年会や相談係の中だけでは、情報の収集・共有が不十分。年間を見通した計画のもとに、全職員で情報共有を行う機会を検討。 ○指導上配慮の必要な生徒について、生指部と情報の共有を図る態勢を作ろうとしているが、まだうまく機能していない。実務的かつ長期的に機能する態勢を再度検討。 ○日常的に支援の必要な生徒が在籍するクラスの、他の生徒の様子についても、日ごろから担任と情報交換を密にし、各方面に協力を求めていく必要がある。	・特別支援係や生徒指導部との情報共有を図り、生徒の状況を的確に把握し対処できるように努めるとあるが、今後さらに様々な特性を持つ生徒の入学が考えられる。保護者対応も含めて、組織的に関係機関と連携して取り組んでほしい。(学校:校内や関係機関と情報共有を図りながら、慎重に対応していきたい。)
			学科・学年・保護者・関係機関との連携を深め、教育相談を組織的、計画的に行う。	3	④学年会に参加し、情報の収集に努め、早期に、組織的に対応する。	3		
			生徒の特性に応じた対応を組織的に行う。	3	⑤特別支援係や生徒指導部との情報共有を図り、生徒の状況を的確に把握し対処できるように努める。	2.5		
情報推進係	校務を遂行できるような情報機器の普及整備を行い、教育の情報化を図る	2	校務支援システム・校内ネットワークの普及及び校務のスリム化	2	①校務支援システムを誰もが安定して使える環境作りに努める	2	・宮崎県教育情報セキュリティが改訂されている。本校の教育情報セキュリティの至急作成しなければならない。 ・校務支援システムは、不具合等は校内で対応できた。本年度は年度当初に本校用の操作手順書を配布できた。 ・HPは本年度多くの先生が更新して頂いている。来年度以降もHP更新をさらにお願いしたい。HP更新方法の研修についても案内や研修等を行いたい。 ・来年度、県立学校情報基盤統合事業により、各自パソコンのアカウント管理など学校単位での運用・管理から、県で運用・管理へ転換を行う予定です。	・時々、事件として取り上げられるようなデータの紛失等への対策は十分でしか。(学校:コンプライアンス研修等で意識の徹底を図るとともに、また自主点検を行い、機会あるごとに注意喚起に努めている。)
					②保護者へのメールシステムの普及を図り、インターネットを活用した情報発信を行う。	2		
					③グループウェアを用いた活用方法を検討し、利用を推進する。	2		
					④コンピューター教室、教育工学室およびタブレットの活用方法を検討し、多くの生徒が利用できる環境作りに努める	2		
生物工学科	実践学習を通して基礎的な栽培知識・技術を学習し、更に農業を科学的に学習することで、植物の生理生態を理解し、実践力・応用力のある人材の育成を図り、農業後継者や関連産業技術者、大学進学者を育成する。	3	生徒の学力、生活習慣などの向上	3	①基礎学力の向上と、関連する進路への指導体制の強化	2.7	・中間テストでの欠点者が多く、基礎学力や課題などの提出率の向上に向けて指導が必要である。 ・四年制大学への進学希望者が増えており、1年からの指導体制確立が急務である。学科では進路対策セミナーを1回実施し、意識向上につなげた。 ・資格取得や農業鑑定に意欲的に取り組む生徒がいる反面、興味を示さない生徒への指導体制を見直したい。 ・バイオ検定や農業簿記検定では多くの合格者を出したが、危険物取扱者試験は合格率が低かった。 ・第1回農業技術検定2級に3名合格した。第2回に1級を2名チャレンジするなど後輩の見本となる動きもある。アグリマイスター申請 プラチナ1名ゴールド1名シルバー1名 ・多くの生徒が意欲的に学校生活を送っているが、基本的生活習慣が身についておらず、指導困難な生徒がいる。 ・不登校生や不登校気味の生徒に対して関係職員への協力など細やかな指導が必要である。 ・インターンシップや学科集会など、農家や関係機関と連携しながら進めることができた。 ・実習中の更衣室施設が「徹底されていない。 ・GAPへの取り組みが必要であり、併せて農場の環境整備や安全教育を進めていきたい。	・GAPの取組は、今後ますます重要になると思う。(現在、生物工学科と生産流通科で相互に協力し、平成31年度に向け農場改編を行っている。その中で、GAPへの取組が中心となっている。高い教育効果が得られるよう準備をすすめたい。)
					②実験・実習など実践学習により、農業に関する知識・技術を習得する。	3.0		
					③農業に関する進学者への指導・支援の強化と合格率の向上	2.7		
					④資格取得の充実を図り、取得率向上を目指す。	3.0		
					⑤基本的生活習慣を身につけさせる。	2.3		
					⑥プロジェクト学習、農業鑑定の推進により、専攻実習や農業クラブ活動の活性化を図る。	2.7		
		3	指導者の指導力向上	3	⑦先を予測した教科・実習指導・生活指導の充実と、生徒理解の向上	2.2		
					⑧外部講師招聘・先進農家視察・インターンシップ等を積極的に進め、地域との連携強化、学校開放に努める。	3.3		
					⑨職員研修・情報交換を積極的に行い、教科指導・生活指導・農場運営に反映させる。	2.7		
					⑩学級経営・活動、学科集会の充実と支援	2.7		
					⑪学習成果、学習活動などを地域及び中学校にアピールする。	2.5		
					⑫農場・校内の清掃指導の徹底	2.3		
	施設設備の充実、安全管理の徹底	3			⑬農場施設・設備、農具等の整理整頓、管理・施設の徹底、計画的な更新申請	2.7		・欠点者多い原因は、何か、全学をあげての取組も必要。(学校:本校の学力向上の取組は、県内でも先進的であると思われる。さらに効果が上がるよう、取り組みたい)
					⑭農具・農業機械・農業使用における安全教育の徹底	2.7		
						2.7		

基 本 方 針		努 力 目 標		具 体 的 な 取 組 み		反 省	学校評議員からの意見・提言 及び学校評価		
内 容	評価	内 容	評価	内 容	評価				
生産流通科	農業生産と流通に関する知識・技術、及び専門教育を通して培った人間性を生かし、社会の発展に貢献できる人材を育てる。	3	授業や実習、資格取得などの内容や指導方法を工夫する	3	全職員で授業力の更なる向上に取り組む	3.3	・農業高校の特徴を生かした、近年、教育に求められている地域貢献活動を通した教育は高く評価できる。		
					農業技術検定3級、簿記能力検定3級、各種情報処理検定1級の取得を目指す	3			
					学校農業クラブ活動を充実させる	3			
					農場の施設設備や環境の改善を進める	2.5			
			進路実現のために、指導・支援・情報収集を強化し、学科の特性に応じた進路決定を目指す	3	専門教育を生かした進路指導を強化する	2.7		・12月には3年全員の進路が決定したが、売り手市場のため生徒の資質と企業のマッチングが十分でない中での決定者もいると感じる。卒業までに社会人としてのあり方・生き方を学ばせ、離職がないようにしていく必要がある。 ・インターンシップについては受け入れ企業が固定されつつある。学科の目標と照らし合わせて、さらにふさわしい受け入れ企業の選定を行う。 ・朝市など対外的な行事やイベントへ積極的に参加することで生徒のコミュニケーション能力は付いてきているが、職員が常に付く必要となり、働き方改革に逆行し、代休の取得が困難な状況が生まれている。行事の精選や代休取得がしやすい環境にしていく。 ・生産物は、毎年考えながら地域性や生徒の学習に最も良い物を栽培している。学ぶ材料を多くすることで、興味関心・意欲の向上につとめている。今後もしっかりと取り組んでいく。 ・農場の整備が遅れている。安全に実習を行うために年次計画をしっかりと立て、改修すべき所はしっかりと改修し、生徒が安全に実習できる環境にする。 ・発達障害など様々な悩みを抱えている生徒が増えてきている。農場で安心して実習ができる環境整備をお願いしたい。	
					地域での活動（楠並木朝市など）を進路指導や進路開拓に繋げる	3			
					インターンシップや企業視察、外部講師を活用し、進路指導や進路意識の向上に努める	2			
					キャリア教育の充実を図る	3			
			地域の特色を取り入れた農業教育を推進し、地域に根ざした特色ある学科を構築する	3	楠並木朝市など地域の活動を通して専門教育の充実を図る	3			
					学科の特性を活かした活動に積極的に参加し、地域社会に貢献する	3.5			
人間性を高めるための工夫と努力を行う	3	生産・販売・流通・経営など幅広い分野で対応する農業教育を展開する。	3						
		消費者ニーズに応じた農産物の生産・利用のできる柔軟な発想を持たせる	3.7						
		農場での実践教育を通して幅広い人間性を育てる	3.5						
		社会で生きる上で必要なマナーを身に付けさせる	2.5						
食品工学科	日常生活に活用できる食品に関する基本的な知識及び専門的な加工や分析技術を習得させ、自ら意欲的・創造的に取り組もうとする態度を育成し、将来、食品の加工や分析等に関する分野を得意とする人材を育てる	3	生徒各自が進路目標を実現できる指導を行う。	2.8	1年次から学科の目指す進路に沿った行事（講話・視察・研修）を実施し、進路意識の高揚を図る。	2.0	1年生は3学期に食品工場見学等を計画しており、1学期は計画立案中である。2年生は夏休みのインターンシップの準備が順調に進行中。3年生は進路につながる製菓講習会を実施。1年生から3年生まで学習・進路・教育相談週間等を利用して充実した指導ができた。		
					各学年において学期ごとに進路に関する調査・面談を実施することにより、それぞれに応じた指導を行う。	3.0			
			社会に通用する生活習慣やマナーを身に付ける指導を行う。	3.0	日常の容儀指導及び事後指導の徹底をはかる。	3.0		学校全体としての指導体制が明確になりつつある中、家庭との連携をより密にし、効果的な指導につながりつつある。部活動、農業クラブ活動も充実し、すばらしい成果となった。（部活動：高校総体でレスリング個人優勝2名、女子テニスダブルス3位、国体強化選手2名（レスリング、新体操）。農ク：プロジェクト発表2位、意見発表2位農業鑑定3位）	
					家庭との連携を密に図り、効果的な指導を実践する。	3.0			
			生徒の進路に必要なとする学習内容の精選を行う。	3.0	部活動・農業クラブ活動に積極的に取り組むような環境を作り、体力・精神力・忍耐力及び協調性を身につけさせる。	3.0		最低限の専門的知識・技術を身につけさせて卒業させるために、学習内容の重点ポイントを明確化し、シラバスの再検討が必要。	
					教育内容の構造化によって学習内容を明確にし、専門科目の教育課程（単位数）の検討とシラバス（内容）の再検討を行う。	2.5			
			各種施設設備を効果的に活用し、本校農産物を利用した加工食品の研究・開発に努める。	2.8	職員研修を行い活用不十分な施設設備の活用を図り、教育内容を充実させる。	2.5		既存の施設設備を活用し、時代の変化に対応した加工品の製造工程の見直しができた。食品工学科の加工品や食品開発部で開発した新商品。企業とのコラボ商品等の地域への紹介や販売を行った。（お菓子のひろやとのコラボでの高岡文旦を利用したスイーツの開発、販売）	
					大学や地域との連携を図りながら、本校の農産物を利用した加工食品の研究・開発を行う。	2.5			
					学科の加工品を、生徒のアイデアを活かしながらアピールを行う。	2.5			
環境工学科	環境保全を考慮した地域開発の知識・技術を備えたスペシャリストのおよび社会人としての定着力の育成	1 基本的な生活習慣の定着と社会人として通用するモラル・マナーの育成	2.7	①挨拶の励行及びエチケット、マナーの遵守	2.0	・全体的に評価点の低いのが気になります。（学校：担当する教職員の意識が高いため、結果的に評価点が低くなる傾向にある。）			
				②保護者と連携し問題行動の防止、意識の高揚を図る	3.0				
				③家庭・担任・学科との連携を密にし、欠席・遅刻の防止に努める	3.0				
				④学科の特色及び生徒の実態に応じたキャリア教育の推進	3.0				
		2 特色ある学科づくりの推進	2.4	⑤実習施設・設備の充実とそれを利用したスペシャリストの育成	2.0	・体験を通して得た知識は、記憶に残り、実社会においても役に立つと思う。さらに充実した実習が期待される。			
				⑥測量や土木、環境に関する最新技術の研修の充実	3.0				
				⑦地域及び中学校への積極的情報発信	2.0				
				⑧環境問題と食糧生産への興味関心を持ち、知識・理解を得る	2.0				
		3 学力向上の意欲を高める	2.0	⑨各種資格取得への意識啓発と合格させるための授業および朝課外等の指導体制の確立	3.0				
				⑩「生徒が主体的に取り組む授業」への工夫・改善	2.0				
4 全員の進路目標実現のための計画的かつ継続的な指導の確立	1.8	⑪主体的な学習態度の育成と家庭学習の定着化推進	1.0	前向きな生徒を邪魔する生徒、学習の必要性を正面から否定する生徒がいるため、学習することの大切さを徹底して、指導していきたい。 家庭学習の習慣はほとんどの生徒が身に付いていないため、指導に苦慮している。					
		⑫関連職種や大学進学に対応できる基礎学力の向上（普通教科との連携）	2.0		3学期も現地研修や企業による技術指導、出前講義等を通じて専門意識の高揚を図りたい。				
		⑬四年制大学や各種専門職に合格させる指導の確立	1.0			一人でも多くの生徒が自分の進路目標を達成できるように、受験指導においては学科の全職員を挙げてサポートしたい。			
		⑭専門への意識高揚を目的とした大学・企業との連携強化	1.0						
⑮土木建設および鉄道関係企業の進路開拓	3.0								

	基 本 方 針		努 力 目 標		具 体 的 な 取 組 み		反 省	学校評議員からの意見・提言 及び学校評価
	内 容	評価	内 容	評価	内 容	評価		
生活文化科	食物、被服、保育、家庭看護・介護などの各分野を体験的、総合的に学習し、専門分野の基礎的・基本的な知識・技術及び技能を身につけさせ、生活文化の伝承と創造に寄与する能力を養う。各種検定にも積極的に挑戦させ、知識や技術の定着を図るとともに、地域との連携を推進し、将来生活関連産業で活躍できる人材を育成する。	3	授業力及び指導技術の向上	3	①職員相互の研修の活発化と評価の在り方についての研究 ②家庭科技術検定試験2級3種目及び1級1種目全員取得に向けた指導の充実	2.8 3.5	②資格取得に向け生徒の取組状況はおおむねよいが、技術力低下に伴い全員合格が厳しいのが現状。 実態に応じた柔軟な対応をとりながら、生徒の技術力の向上に向け努力したい。 ③生徒主体の家庭クラブ活動の推進。授業の中での取組を増やしたり、農業クラブ等と連携するなど、活動の幅を広げる工夫を検討したい。 ④県家庭クラブ研究発表大会では、2L河山陣がホームプロジェクトの部で発表し、最優秀賞を受賞した。 ⑤くろがね祭でのファッションショーは学習成果の発表、学科のPRとして効果的に実施できた。 ⑥3年間を見通した進路指導計画の立案に向け、進路指導部や学年会とも連携しながら組織的な指導ができるような体制づくりに向け努力したい。ポートフォリオの作成が今後の課題。 ⑨保護者との連携は担任を中心に密に行えている。連絡がつきにくい家庭もあり苦慮している。朝の25分登校はおおむねできている。できていない一部は固定化している。対策を講じたい。 ⑪服装容疑で大きな乱れは少ないが、徹底しているとは言い難い。全学科、全学年で	・将来の職業観や勤労観をイメージ的に持つことのできるキャリア教育は、日頃の授業の改善にも繋がるのではないかと思う。キャリア教育の充実は今後とも重要である。
			学科の特色をいかした学校家庭クラブ活動の推進と生徒の主眼的な学習態度の育成	3	③学校家庭クラブ活動の充実に向けた取組 ④探求的学習活動（ホームプロジェクト・課題研究等）の充実	3.2 3.2		
			キャリア教育の視点を取り入れた学習の推進と進路指導の充実	3	⑤場に応じた生徒の発表の場の設定 ⑥自己実現に向けた積極的取組を促す進路指導計画の研究 ⑦インターンシップ及び外部講師招聘講習会の充実 ⑧生活産業基礎・生活美学におけるキャリア教育の視点を取り入れた授業の実践	3.6 3.3 3.5 3.3		
			基本的生活習慣の確立とボランティアや異世代との交流活動の推進	3	⑨保護者との連携による遅刻・早退・欠席の防止 ⑩清掃及び挨拶の励行と服装容儀指導の徹底 ⑪異世代との交流活動や地域貢献活動の活発化に向けた研究	3.2 3.3 2.5		
1 年 学 年 会	高等学校3力年の基礎の確立を、学習、生活、進路の各方面から図り、宮農生の一員として自覚ある行動の取れる生徒を育成する。	3	学習習慣の確立	3	①疑問点を解決したり、見直しをしたりする家庭学習の習慣を身につけさせる。 ②課題を期日内に提出する習慣を身につけさせる。 ③計画的にテストに取り組む習慣を身につけさせる。	2.2 2.6 2.6	①クラスによって差はあるが、宅習や課題を提出させることで、強制的にだが家庭学習の習慣ができてきた。 ②期限を守れない生徒は固定化。担任の協力のもと概ね守れている。守らせる指導が難しい。 ③テスト前の学習会が実施できたのは良かったが、成績不振者への対応が曖昧になってしまったので、教科との連携が必要だった。全体的にテストに対する意識が低く、欠点を取ってもどうにかなると考えている様子が窺える。 ⑤他学年に比べてできていない。入学当初はできていたのにできなくなった。部活動生の挨拶も物足りない。 ⑥自ら動ける生徒と監督がいなくてできない生徒がいる。実習後の取組が悪い。 ⑦定着はしていない。朝も8時25分着席ができない生徒がいる。30分が正式な遅刻であることから指導に困難を感じている。 ④目につく点…菓子類の持込、プレザーや学ランのボタン外し、髪飾り、携帯持込、がさつな行動 ⑧総学の内容を担当も把握して連携して進路学習につなげたい。今学期は文章を書く練習ができた。 ⑨関心はまだ低いので、まずは3学期に始める進路対策学習会のメンバーの意識を高め、それに影響されるように全体の意識が高まっていくとよい ⑩意欲が低い。 ⑪ポートフォリオの作成が課題。 ⑫行事に向けてはよく協力して頑張っていたが、クラスの人間関係に悩んでいる生徒も多い。 ⑬気になる生徒に対し、すぐに対応できた。相談部との連携もできたので良かったのではないかと。ただ中には生徒が悩んでいるのを把握するのが遅くなった例もあった。	・「物足りない」というのはどういうことなのでしょう。先生が感じていることか反省なのか、教えていただきたい(学校:挨拶が全体的にできていないことは否めない。生徒のあいさつ運動などもあるが、さらに気運を高めたい。) ・朝8時25分着席で8時30分遅刻と5分間のプレが生じている様なので、どちらかに決める必要があるのではないかと。(学校:5分前行動を意識づけたい。そのためには、8時25分着席などの指導は重要である。)
					④校則を守り、節度ある行動をとることができるようにする。	2.9		
					⑤挨拶を進んで行うことができるようにする。	2.4		
			生活習慣の確立	3	⑥清掃に進んで取り組み、整理整頓を行うことができるようにする。	2.7		
					⑦時間を守り、始業チャイムと同時に活動を始めることができるようにする。	2.8		
					⑧LHRや総合的な学習の時間を通して、自らの生き方を考え、進路意識を高めることができるようにする。	2.7		
			進路意識の醸成	3	⑨就職や進学動向に高い関心を抱くことができるようにする。	2.4		
					⑩資格取得に励むことができるようにする。	3.1		
					⑪各種HR活動に進んで取り組み、クラス集団における個人の責務を果たすことができるようにする。	3.0		
			望ましい対人関係に必要な資質の養成	3	⑫特別活動などに積極的に関わり、協調性や帰属意識を高めることができるようにする。	2.8		
					⑬日常的な生徒の変化をとらえ、保護者との連携を密にする。	3.0		
					⑭家庭訪問を実施し、家庭環境並びに自宅での様子を把握する。	3.4		
			家庭との連携	3	⑮学級通信などを通し、クラスの現況を伝える。	3.0		
2 年 学 年 会	各部・各学科や保護者との連携を密にし、組織的・機能的な指導を行い、自立心の養成に努め、充実した学校生活を送らせる。	3	基本的生活習慣の確立及び集団性・社会性の伸長を図る。	3	①遅刻・欠席・早退を極力させない指導と、諸届けの義務を徹底させる。 ②時間厳守と集団行動における規律指導を徹底する。 ③品性のとれた礼儀・服装容儀面の徹底を図り、節度ある生活習慣を定着させる。 ④心豊かな生徒と良好な人間関係の育成に努める。	2.8 2.3 2.3 2.8	①長欠生徒1人、また欠席・遅刻が多い生徒が数名いる。 ②8：25着席がなかなか定着しない。徹底させるには、学校全体で取り組む必要がある。 ③服装容儀面で注意を受けることが多い。特に、女子生徒で上着のボタンを留めないことで注意を受ける生徒が多い。気づいたらその場で指導することを、職員一丸となって徹底すべきである。 ⑤授業中の私語が多くなかなか集中できない生徒がいる。 ⑥学習時間が少ないようである。特にスマホ使用時間が多く、宅習調査そのものを生かしながら、学習させる手立てを講じる必要がある。 ⑦中間テストで欠点を取った生徒に対する指導が徹底できなかった。2学期中間から期末テストまでの学校行事について再考する必要があるのではないかと。 ⑧三者面談、二者面談を繰り返すことで、生徒および保護者との絆がより強まった。 ⑨⑩インターンシップでは、生徒それぞれが自らの進路意識を高めたようであり、効果的であった。学年PTAでは外部講師による講演会があったが、どちらかといえば進学に関する内容であったため、就職希望の生徒にとってはあまり意味をなさないものであった。 ⑪⑫くろがね祭ステージ部門では、各クラスとも生徒が中心になって進めることができた。それぞれの生徒の良さやポテンシャルの高さを確認できた。 ⑬修学旅行では大きなトラブル等はなかったが、直前にくろがね祭、期末テスト等があり、生徒にとって準備不足は否めないものであった。また、中学校の修学旅行が東京になりつつあること、教職員の働き方改革の流れの中で、修学旅行を見直す時期に来ているのではないかと。	・学生本人はもちろん保護者自身も2学年の過ごし方の重要性を理解してもらとうと良い。保護者同士の学年を越えた体験談や学科別の意見交換の場があると良い。(学校:先輩PTAや卒業生など、学年PTAなどで話しをしてもらう場面など検討していきたい。)
					⑤ベル着を徹底させ、授業に真剣に取り組ませる。	2.7		
					⑥短時間でも自宅です毎日必ず机に向かう習慣をつけさせる。	2.5		
			真摯で意欲的な授業態度を育成し、基礎学力の定着を図る。	3	⑦成績不振者への効果的な指導を行う。	2.2		
					⑧きめ細かな個人面談を実施し、進路についての具体的目標を早期に確立させ、向上心を育む教育を行う。	3.0		
					⑨LHR等を有効に活用し、キャリア教育を推進する。(外部講師招聘・インターンシップ等)	3.0		
			自ら進路情報を収集する態度を育て、具体的な進路目標を確立させる。	3	⑩進路に関する情報を積極的に提供し、進路目標に対応できる学力の定着や資格取得の推進を図る。	2.8		
					⑪ホームルーム活動を重視し、生徒の主眼的活動を推進し、学級委員長・各種委員を中心とするリーダーの育成に努める。	3.1		
					⑫特別活動に積極的に参加させ、クラス・学科・学校における連帯感や協調性を高める。	3.2		
			学校行事・生徒会活動・部活動などの特別活動に積極的に参加することを促す。	3	⑬修学旅行を充実させ円滑に実施する。	2.8		

	基 本 方 針		努 力 目 標		具 体 的 な 取 組 み		反 省	学校評議員からの意見・提言 及び学校評価
	内 容	評価	内 容	評価	内 容	評価		
3 年 学 年 会	職員・保護者との 綿密な連携を図りながら、組織的・計画的・継続的・機動的な指導をおこなう。	3	生徒一人ひとりの個性や適性を尊重した進路目標の達成に努める。	3.8	①生徒各自の希望進路に対応した指導の充実	3.4	○公務員希望者が多く早期に外部の専門の方に説明に来ていただき良かった。今後も継続できるとよい。 ○就職コーディネーターの方に情報や的確なアドバイスをいただくことができた。 ○進路に関しては、2回の学年PTA、各クラスによる面談を随時実施していただき保護者との連携を取ることができた。 ○遅刻欠席が多く、該当者の固定も見られた。学校推薦を受けられない生徒も数名おり今後の手立てを講ずる必要がある。1、2年次からの指導が不可欠である。 ○受験対策に気を取られたり、進路決定の油断から2学期中間テストでは多くの欠点が出た。また、以降も進路決定後の気の緩みから、遅刻・欠席や容儀の乱れ、学習意欲の低下を来した生徒も見られた。 ○小論文、面接指導では多くの先生方のご協力で、学科の枠を越えた指導ができた。大学進学者の面接等の指導時期を早める手立てが必要である。。 ○集会時の話を聞く態度等は良かったが、日常の容儀面や挨拶では指導を要する生徒も見られた。 ○体育大会ではクラスで団結し、3年生らしい取り組みが見られた。その他の各行事への取り組みも意欲的であった。 ○集会等で機会ある毎に指導をしてきたが、進路決定後にも無断アルバイトで指導を受けた生徒がおり、臨時合同終礼で再度防止に向けての喚起を行った。	・成功体験を効果的に活用できると良い。(学校:進路指導部が主管となり、学科別に進路決定者が1、2年生に成功体験談を語る会や、卒業生から在校生へ講話をするなど、企画・実践している。)
					②進路情報の共有化	3.2		
					③進路指導部・学科・教科との連携	3.2		
					④保護者との連携(学年PTA集会・三者面談の実施)	3.3		
			社会人に見合った学力・常識の育成に努め、全員の進路実現に繋げる。	3	⑤欠席・遅刻の防止	2.5		
					⑥成績不振・不登校生徒の早期把握と対応	2.7		
					⑦授業、個別指導、小論文・面接指導、実力テストの充実	3.0		
					⑧礼法指導(容儀・挨拶・言葉遣い・話を聞く態度など)の徹底	2.9		
					⑨進路決定以後の学習意欲の維持	2.5		
			HR・学年の団結を図り、最学年としての自覚を持った生徒を育成する。	2.9	⑩各行事への積極的な参加	3.7		
					⑪生徒会・農業クラブ・家庭クラブ・部活動への中心的な取り組み	3.6		
					⑫学年集会の適宜実施	3.0		
					⑬問題行動などの防止	3.0		

・各学科、各学年の目標、取組について学力向上等、同じ目標や取組を設定するのも良いのではないかと考える。(次年度、各学科等の欠点状況も踏まえて集中的に取り組むものもあけるのも方法の一つだと考える。(学校:職員会議で検討している。また、同じ目標に向かい、それぞれの部署でどのようなアプローチが可能かも次年度にむけ準備しているところである。)

・生徒の良さや頑張りを生かしながら、重点目標を絞り、全生徒・職員で取り組む何かをあげると良い。